

No.19 医療費及び健診のデータ活用事業 （町民生活課）

令和元年度にめざした姿(目的)

国民健康保険及び後期高齢者医療の被保険者が、心身ともに健康に過ごせるように、医療費及び健診データを活用して支援します。

令和元年度にめざした成果

- ①後発医薬品の使用割合（数量シェア）を高めます。
- ②特定健診の受診率、特定保健指導の終了率を高めます。

令和元年度にめざした活動(主な取組み)

- ①健診結果から、生活指導及び医療の受診が必要な方に対する訪問・保健指導を行います。
- ②特定健診の未受診者への通知及び電話による受診勧奨を強化します。

令和元年度の成果

- ①後発医薬品の使用率を上げるために、ジェネリック差額通知の送付を行いました。後発医薬品の数量シェア率は80%に伸びています。
- ②健診結果から、必要な方への保健指導を実施、また個別にはがきや電話による受診勧奨を行い、住民から受診のきっかけになったという声を聞いています。

令和元年度の問題

糖尿病予防教室について、通知者の1割未満の参加者にとどまっています。また、健診受診勧奨についても継続して行い、受診率を上げる必要があります。

令和2年度以降の方策

(1) 達成できた事項をさらに伸ばす方策

勧奨方法の評価を行い、効果的な受診勧奨を行います。また、AIを活用し受診歴や健診結果別に受診勧奨を行います。

後発医薬品の使用率を上げるために、引き続き広報とジェネリック差額通知の送付を行います。

(2) 解決すべき問題への方策

健診で異常があった方に対し、生活習慣改善の動機づけを行います。また、個々のニーズに合わせた教室運営を行います。

後発医薬品の使用状況についてさらに把握し、分析を行います。

(3) 新たに取り組む方策

AIを活用してタイプ別受診勧奨を行います。

医療費増加の主な要因となっている生活習慣病関連の疾患について医療費分析を行い、重症化予防を進めます。